

受講生のみなさんへ

最初の1ページ目はトピックスとして実習前に読んでおいてください。

「知っている木の名前はいくつありますか？」

知っている木の名前をかたっぱしから書いてみてください。20ケ以上かけた人はハカセです。10～19ケの人は木に興味がある証拠です。5～9ケの人はフツウです。いきなりおぼえても以外に思い浮かばないものです。

木の名前は具体的に思い浮かばなくても、日常の生活に支障はありません。現代の生活には、具体的な木の名前がとくに必要とされないからです。昔の人は木の製品にあふれた生活をしていました。その時は木の具体的な名前が必要でした。必要だから名前がついたのです。樹種で区別する必要のない木は燃料のたきぎに利用しました。燃料の木はひとまとめに柴木（しばき）と言っていました。おじいさんの柴刈りのことです。

里山にはコンビニ、ガソリンスタンド、信号みたいに目立つものはありません。たとえば、「今日は、△△△の枝のまがったオニグルミの前に集合！」と言われることがあります。

里山で活動して、樹木に親しむためには名前を知ることが必要ですが、名前を知らないで親しめないわけではありません。しかし、樹木についての情報をまとめて記憶するには名前が必要です。頭の中を整理するだけでしたら、自分で覚えやすい愛称で記憶するのでもかまわないのですが、和名で印象を固定したほうが得策でしょう。和名が頭に入れば、図鑑を引くとき便利です。図鑑はある程度情報を持っている人が、確認するための道具です。索引から引くことが多いはずですが、和名が頭に浮かぶと、関連情報を芋づる式に思い出すことができます。ひとつ一つ関連づけて記憶することもできるのです。

樹木観察をするには場所を選ぶ必要はありません。まず、身近なところからはじめてください。庭があれば庭木からはじめてください。近くに公園があれば出かけましょう。途中で街路樹や生け垣があれば立ち止まって、幹や葉をさわってみましょう。その気で見ると、以外に多くの種類が植えられているのです。ちがった種類かどうか、くらべてみましょう。季節が違えば、樹木の様子はかなりちがって見えます。家の周辺の観察がひととおり終わったら大きな公園、植物園や吉峰に行ってみましょう。植物園では名札のついた樹木もあります。名前をメモしておき、あとで図鑑を索引してみてください。見てきた木と図鑑の写真がちがって感じる人が多いはずですが、図鑑は、花が咲いた状態の特徴がわかりやすい写真を使っているからです。観察する時は、葉だけで、花や実のついていないほうが多いのです。冬、落葉すると、みなれた木でもむずかしく感じてしまいます。ここであまり深入りしないで、じつとがまんして継続してください。

記憶に残る木の名前が増えてくると樹木観察はますます楽しくなります。散歩をしていて記憶のなかの木で出会うと、友達に会ったような気になります。いままでなにげなく通り過ぎていた道も、周囲に目をやるようになり、おもわぬ出会いにわくわくする散歩道になります。

花見は終わりましたがソメイヨシノの害虫にモンクロシヤチホコがいます。9月ころの食害と糞害がひどく「不快害虫」といわれています。ここでよく考えてみましょう。自然の循環では、葉が落ちて微生物が分解して腐葉土になるには半年から1年かかります。幼虫の糞は、細長いからだのなかでよくこなされていますので、木の下に落ちたものは短期間で肥料になります。樹木をとりまく内容は多く、視点を変えてじっくり学ぶこともできます。

① 樹種名の覚え方

- ・最初はガマンして覚える
- ・自分の指標（知っている知識）を持ち、比較する
- ・最初はあまり深入りしない（園芸種、別名、学術名はのぞく）
- ・樹木をとりまくもの（昆虫、土壌、気候、木工、風土、いわれ）を知る
- ・身近なフィールドをもつ
- ・できるだけ「聞き立場か」ら「話す立場」にしていく
- ・おおまかな分類ができると加速度的に覚えることができます

② なぜわかりにくいのか

- ・四季を通してさまざまな姿に変化する（落葉、葉、花、実）
- ・成長によって姿が変化する（稚樹、成木、老木）

③ 生物の名前、種とは

界（かい） 門（もん） 綱（こう） 目（もく） 科（か） 属（ぞく） 種（しゅ）
 （20世紀の分類体系で示す）

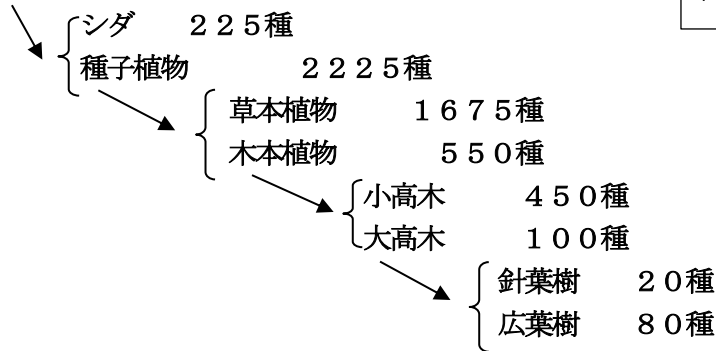
標準和名	ヒト	ヒノキ	コナラ	ヤマボウシ
界	動物界	植物界	植物界	植物界
門	脊椎動物	球果植物門	被子植物門	被子植物門
綱	哺乳綱	マツ綱	双子植物綱	双子植物綱
目	サル目	マツ目	ブナ目	ミズキ目
科	ヒト科	ヒノキ科	ブナ科	ミズキ科
属	ヒト属	ヒノキ属	コナラ属	ヤマボウシ属
種	Homo sapiens	C. obtusa	Q. serrata	Benthamidia

図鑑にでているものは標準和名のことで。

④ アカシア、ニセアカシア、ハリエンジュ（標準和名）

⑤ 多様な森林の構成種（富山県に生育する植物）

維管束植物 2500種



注記：大変おおまかな数字です。

⑥ おすすめ図鑑

- | | |
|------------------------------|-------------|
| 「富山県二次林の主要樹種」 80種（今回の資料） | 無料 |
| 「樹に咲く花」 3冊セット 山と溪谷社（高価、重いが高） | 3,600円 x 3冊 |
| 「都会の木の花図鑑」 八坂書房（園芸種が混載） | 2,000円 |
| 「葉でわかる樹木」 信濃毎日新聞社 | 3,200円 |

⑦ 最近読んで面白かった本

- | | |
|-------------------------------|--------|
| 「イタヤカエデはなぜ自ら幹を枯らすのか」 渡辺 一夫（著） | 2,160円 |
| 「アセビは羊を中毒死させる」 渡辺 一夫（著） | 2,160円 |
| 「木を知る・木に学ぶ」 石井誠治（著） | 800円 |
| 「樹木ハカセになろう」 石井誠治（著） | 940円 |
| 「森と日本人」 田中淳夫（著） | 780円 |

私たちを惑わせる樹種名

アカシア・ニセアカシア・ミモザ・ハリエンジュ??

明治期に日本に輸入された当初は、**ニセアカシア**を**アカシア**と呼んでいた。後に本来のアカシア（ネムノキ亜科アカシア属）の仲間が日本に輸入されるようになり、区別するためにニセアカシアと呼ぶようになった。しかし、今でも混同されることが多い。本来のアカシアの花は放射相称の形状で黄色く、ニセアカシアの白い蝶形花とは全く異なる。

下記はすべてニセアカシアとされる。

- 札幌のアカシア並木
- アカシア蜂蜜として売られているもの
- 西田佐知子のヒット曲「アカシアの雨がやむとき」に歌われる「アカシア」
- 石原裕次郎のヒット曲「赤いハンカチ」に歌われる「アカシアの花」
- 北原白秋の「この道」に歌われる「あかしやの花」
- 清岡卓行の小説「アカシヤの大連」で知られる中国の大連市を代表する樹木
- 松任谷由実の「acacia[アカシア]」（2000年代）

ニセアカシアが侵入したことで、アカマツやクロマツなどのマツ林、ヤナギ林が減少し、海岸域や溪畔域の景観構造を大きく改変させていることが確認されている。ニセアカシアは単独で木本の生物多様性を低下させるだけでなく、好窒素性草本やつる植物をともなって優占し、植生を独自の構成に変えてしまう。これを危惧し、**日本生態学会**は本種を日本の侵略的外来種ワースト100に選定した。日本では外来生物法の「**要注意外来生物リスト**」において、「別途総合的な検討を進める緑化植物」の一つに指定されている。標準和名は「**ハリエンジュ**」で覚えてください。



ナツツバキ・シャラノキ・サルスベリ??

ナツツバキの原産地は、日本から朝鮮半島南部です。日本では、宮城県以西の山地に野生しており、別名**シャラノキ**といわれます。

ヒメシャラは、ナツツバキより小さい花をつけるのでヒメ（姫）シャラの名前がついています。

標準和名で**サルスベリ**と呼ばれるものはナツツバキやヒメシャラとは科が違います。

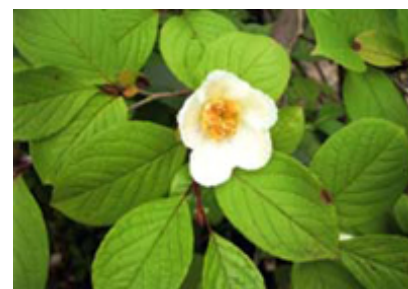
ナツツバキとヒメシャラは、地方によっては、サルスベリとよばれます。昔の人々は、木に登る必要が多く、猿の木登り上手がうらやましかつたに違いありません。そこで、猿でも滑って登れそうになり、樹肌のすべすべした木をサルスベリ（猿滑り）とよびました。このような樹肌を持つ樹木は、サルスベリ、サルダメシなどと名づけられており、日本で十種以上はあるでしょう。その中でも、代表的なものは、ナツツバキ、ヒメシャラ、リョウブなどです。

ナツツバキは、“ツバキに似ているが偽の”という意味だそうです。

ところで、ナツツバキが、シャラノキまたはサラノキ（沙羅樹）とよばれるのは、釈迦（しゃか）が入滅（にゅうめつ）（死去）する時、臥床（がしょう）（寢床）に咲いていたインド原産の常緑高木樹（フタバガキ科）のサラソウジュ（仏教における聖なる樹の一つ）に間違えられたことに由来するといわれています。日本でいうシャラノキ（ナツツバキ）は、ツバキ科の落葉樹で、インドのものとは全く別の種です。本物の沙羅双樹は、日本に野生していません。

ナツツバキは、釈迦と縁のある沙羅双樹と取り違えられたことから、寺院などによく植栽されています。また、花が美しいため、茶室の庭などの庭木として植栽されます。

標準和名は「**ナツツバキ**」で覚えてください。



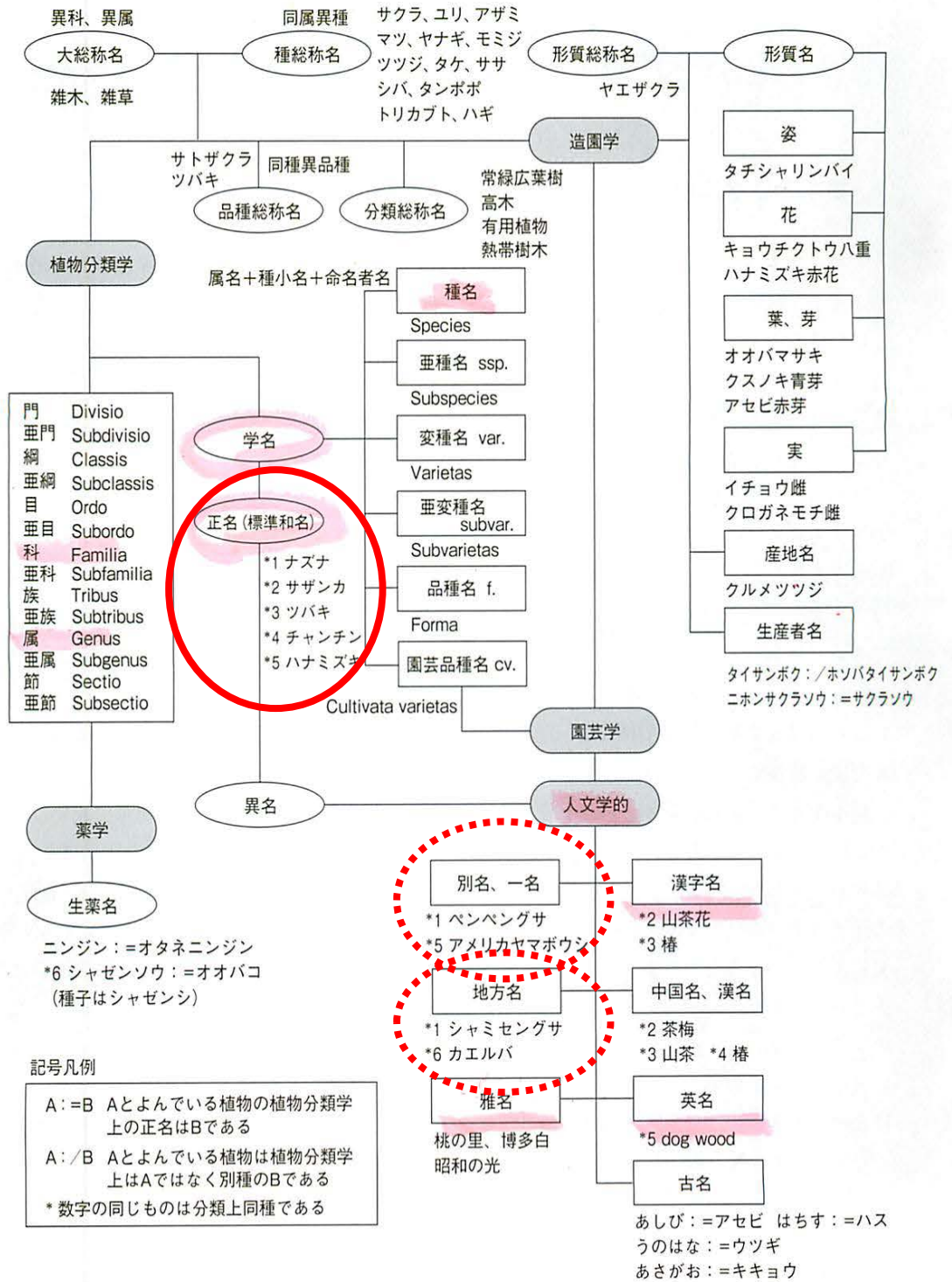


図1 植物の呼称に関する図式¹³⁾

「最新・樹木医の手引き改訂4版」より